



2023年度 環境経営レポート

活動期間 2023年4月～2024年3月



有限会社 広島オート
(マツダオートザム出水)

2024年5月31日発行

1. 環境経営方針



有限会社 広島オート

環境経営方針

有限会社 広島オートは、出水平野にあり、周囲は田んぼに囲まれ、またツルの渡来地等、自然に囲まれた風光明媚な地域で20年来地域密着型の自動車販売及び整備業を営んでいます。

当社は、これらの事業において、自然との調和を図りながら、地球環境の保全と豊かな社会づくりに貢献します。

1. 事業活動に関わる環境関連の法規、条例及び関係する団体、関係者の要請事項を含む、その他の要求事項を順守します。

2. 環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取り組みます。

- ① 限りある資源を大切にするため、省資源・省エネルギーに努めます。
- ② 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・リサイクルに努めます。
- ③ 水資源の削減に努めます。
- ④ 地球温暖化防止に向けて、省エネ型自動車の販売・エコ整備に努めます。
- ⑤ 地域の環境活動に貢献します。

これらについて環境経営目標・計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

3. この環境経営方針は、全従業員に周知徹底するとともに環境経営レポートで公表します。

制定日：2010年4月1日

改定日：2019年4月1日

有限会社 広島オート

代表取締役社長 **広島 信治**

1. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

有限会社 広島オート

代表取締役社長 広島 信治

2. 所在地

〒899-0126 鹿児島県出水市六月田町 932 番地

3. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者 広島 信治（代表取締役社長）

EA21 推進事務局 広島 美加（業務）

TEL : 0996-67-1144 FAX 番号 : 0996-67-3148

E-mail : maz-izumi@mazda-autozam.jp

ホームページ : <http://www.maz-izumi.com/>

4. 事業内容

マツダブランド乗用車・商用車の新車販売

中古自動車販売

部品・用品等の販売

自動車整備業

損害保険代理業 等

5. 事業の規模

1) 従業員数：7名（2024年3月末現在）

2) 年間売上高 約 200 百万円 （2023年9月期） 事業年度：10月～翌年9月

EA21 活動年度 2023年度：2023年4月～2024年3月

年間新車中古車販売台数：約60台 ・年間整備入庫台数：約1,800台

3) 店舗数：1（本社、サービス工場）

4) 敷地面積：1,815㎡ ・床延面積：412㎡（店舗 165㎡、サービス工場 247㎡）

2. 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：有限会社 広島オート

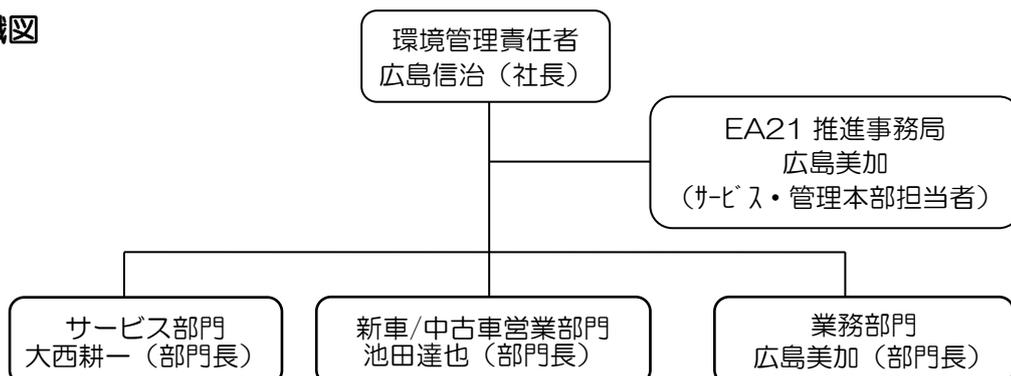
登録対象範囲：自動車の販売（新車・中古車）

自動車の部品・付帯用品販売

自動車の修理及び整備

自動車損害保険代理店

3. 組織図



4. 主な環境負荷の過去の実績

年度：当年4月～翌年3月

項目		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電力	電力使用量	23,194	23,521	22,343	23,521	17,480
	二酸化炭素排出量	10,507	10,655	10,121	10,655	7,918
化石燃料	ガソリン使用量	7,212	7,049	7,113	7,049	6,935
	軽油使用量	1,800	1,436	1,553	1,436	1,084
	化石燃料計	9,012	8,485	8,667	8,485	8,019
	二酸化炭素排出量計	21,377	20,055	20,510	20,055	18,888
二酸化炭素排出量合計		kg - CO ₂	31,884	30,714	30,631	26,806
廃棄物排出量	一般	264	258	261	258	260
	産業	10,642	9,632	10,468	9,632	10,017
水使用量		m ³	244	251	234	127

※電力の二酸化炭素排出係数：九州電力 2022 年度調整後排出係数 0.453 kg-CO₂/kWh に遡って算出

5. 2023年度環境経営目標と実績（2023年4月～2024年3月）

項目	単位	2020年度 実績 (基準年度)	2023年度の目標と実績 2023/4～2024/3			
			目標	実績	評価	
電力	電力使用量	kWh	23,194	22,846	17,480	達成
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	10,507	10,349 △1.5%	7,918 △24.6%	
化石燃料	車燃料	L	9,012	8,877	8,019	達成
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	21,377	21,056 △1.5%	18,888 △11.6%	
二酸化炭素排出量合計		kg - CO ₂	31,884	31,406 △1.5%	26,806 △15.9%	達成
廃棄物排出量	一般	kg	264	260 △1.5%	260 △1.5%	達成
	産業	kg	10,642	10,482 △1.5%	10,017 △5.9%	達成
水使用量		m ³	244	240 △1.5%	127 △48.0%	達成
低燃費車販売		台	61	72	60	未達
地域清掃		件	12	12 維持	12 維持	達成

※電力の二酸化炭素排出係数：九州電力 2022 年度調整後排出係数 0.453 kg-CO₂/ kWh で算出

6. 2023 年度環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

1) 電力使用量の削減

- ① 不要な照明の消灯・節電の徹底
 - ・ ショールーム、事務スペースの業務用エアコンの更新
 - ・ ショールーム照明のLED化の推進
 - ・ 毎月使用量を把握し節電意識の啓発を図る
 - ・ PC 定時自動シャットダウンと定時退社日の順守
 - ・ 夜間不要な広告看板・事務所・工場照明の消灯
 - ・ 昼休み・休憩時、事務所・工場等の消灯
 - ・ 未使用時トイレ・会議室・給湯室・更衣室・部品庫等の消灯
- ② 冷暖房設定温度を管理する
 - ・ 事務所は冷房 28℃、暖房 20℃の温度設定を徹底
 - ・ お客様スペースは体感適温管理
- ③ エアコンフィルターの清掃
 - ・ 清掃日を定めて清掃を実施する
- ④ 待機電源オフを徹底
 - ・ 退社時に確認、定休日前日に確認

2) 燃料使用量の削減

- ① 研修などの出張時はできる限り、公共交通機関を利用する
 - ・ エコドライブの実践
 - ・ 「エコドライブ10のすすめ」を実践し、習慣化
 - ・ 社用車にエコカー導入の検討
- ② 燃費向上策の実施
 - ・ 社用車の空気圧と不要な荷物のチェック管理
 - ・ エコオイル交換、エアエレメントの定期清掃を実施
 - ・ 法定点検の実施

2. 廃棄物排出量の削減

- ① 紙使用量の削減
- ② 両面・縮小コピー活用
- ③ 裏紙用紙のストックボックスの活用
- ④ 用紙裏面使用の徹底
- ⑤ コピー機使用後リセットの徹底
- ⑥ 会議資料の電子データ化推進
- ⑦ 分別を徹底し一般ゴミの削減を推進
- ⑧ 分類別に保管場所を設定し、リサイクルの徹底
- ⑨ 産業廃棄物の適正処理を徹底
- ⑩ 産業廃棄物収集運搬業者の見直し

3. 水使用量の削減

- ① 水使用量の把握と漏水の確認
 - ・ 毎月水道使用量の確認記録と漏水有無をチェックし、意識の啓発
- ② 水の適正使用の徹底
 - ・ 水を流したままにしない

4. 低燃費車販売

- ① 低公害の車の販売
- ② 顧客へのエコドライブの提案
- ③ 車検・整備時のエコ整備推進

5. コミュニケーション向上施策等による生産性改善の取り組み

- ① コミュニケーション向上施策
 - ・社内外での挨拶の励行、重視
- ② 6S（整理、整頓、清掃、清潔、躰、センス）の徹底
 - ・朝礼や社内会議での周知徹底

6. 地域貢献

- ① 会社周辺の道路清掃（月 1 回）

7. 2023年度取り組み結果の評価と2024年度の取り組み

1) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量（電力と化石燃料の使用による CO2 排出量合計）については、基準年（2020年度）比で 15.9%削減できました。大きく削減できた理由は、ショールーム及び事務スペースの業務用エアコンの更新（2023年 12 月実施）を行った点、ショールームの照明の LED 化を推進した点があげられます。また、新型コロナウイルスの規制緩和に伴い、状況を見ながら必要に応じた換気を行ってきたことから、過度の換気を行わずに済んだ点もあげられます。また、継続的に実施してきた日常的なエアコン（冷房・暖房）、試乗車や社用車の効率的運用も含めて、電気使用量や燃料使用量を基準年度と比較して大きく削減できたと評価しています。

① 電力の削減

電力使用量としては、基準年比 24.6%の削減で、年間の削減目標を大きく達成できました。猛暑の影響もありましたが、上記のとおり、業務用エアコンの更新（2023年 12 月実施）を行ったこと、ショールームの照明の LED 化を推進したことで、大きく電気使用量を削減できました。なお、継続的に実施してきた日常的な、休憩時間等、電力を使用しない時間帯の事務所や工場の消灯、自動販売機の夜間消灯、冷暖房の温度管理、エアコンフィルターの清掃、また、残業削減や定時退社日の励行等、継続的に電力使用量削減に向けて取り組んだ点も、目標達成に寄与したと考えています。2024 年度以降も、電気使用量の監視を継続し、引き続き節電に取り組んでいきます。



図-1 エアコンの温度設定（夏期28度、冬期20度）

② 燃料の削減

ガソリンや軽油等の燃料については、基準年比 11.6%削減（目標達成）できました。試乗車や社用車の使用では、感染症防止対策のために、必要に応じて車内換気を行いつつも、アイドリングストップなど効率的運用を図ったことが理由としてあげられます。また、燃費対策として可能な対策として、タイヤの空気圧の点検、エアエレメントの定期清掃とともに、引き続きエコ運転や相乗りの徹底を推進してまいりました。さらに、お客様に対しても、代車、新車試乗時でのエコドライブを提案してまいりました。また、社用車を利用する必要がない場合は、できるかぎり公共交通機関の利用を推進しました。2024 年度以降も、引き続き環境負荷軽減に向けて取り組んでまいります。



図-2 タイヤ空気圧の点検実施

2) 廃棄物排出量削減

循環型社会の実現のために、廃棄物排出量の削減に向けた取り組みを継続しています。例えば、紙使用量の削減のため、用紙の両面・縮小コピーを励行しています。また、お客様の個人情報を含まない不要な用紙に限っては裏紙として再利用したり、会議資料の電子データ化を推進したり、廃棄物の発生を抑制できるよう取り組んでおります。さらに、その他の事業系一般廃棄物や、産業廃棄物についても、分類別に保管場所を設定し、できるだけリサイクルを推進しています。一般廃棄物では、基準年度比 1.5%削減で、年間目標を達成することができました。産業廃棄物では、車検等車両整備の際に発生する廃タイヤや廃バッテリーの処分が減少したことで、基準年度比 5.9%削減となり、こちらも年間目標を達成することができました。

当社では、車の整備の際に発生する廃油、汚泥、廃プラスチック（廃タイヤ）、廃バッテリーなどを産業廃棄物として、法令に則って適正に処分しています。これらの分別等を徹底し、リサイクル化や再利用有価処分等へ取り組んでいます。2024 年度以降につきましても、引き続き確実に環境法令を遵守しつつ、分別やリサイクルの徹底を図ってまいります。



図-3 裏紙として再利用（コピー機）



図-4 産業廃棄物の分別、保管、管理

3) 水使用量削減

水使用量につきましては、基準年比 48.0%減となり、年間の目標である 1.5%削減の目標を大きく達成することができました。結果的に、自社工場における洗車回数の減少、洗車時の節水に心がけた点などが効果としてあげられます。当社では従来から、水使用量の把握や漏水確認等節水意識は高く、水を出したままにしない、漏水のチェックを行う等、様々な取り組みを続けております。2024 年度以降につきましても、引き続き水資源の適正利用に取り組んでまいります。

4) 低燃費車の販売

マツダグループでは、クリーンディーゼル車など、低燃費車や低公害車の販売を推進しています。2023 年度は、前年度比と同様な販売台数（60 台）に留まり、残念ながら販売目標（72 台）を達成することができませんでしたが、引き続き、低燃費車や低公害車の販売活動を通じて、お客様の経費削減はもちろん、二酸化炭素排出削減等、環境負荷軽減に向けて貢献してまいります。

マツダのクリーンディーゼル技術革新

新しい燃焼 急速多段燃焼
(SKYACTIV-D 2.2搭載技術)



ディーゼルのレスポンスを革新
DE精密過給制御



ディーゼルの音を革新
ナチュラル・サウンド・スムーザー



図-5 クリーンディーゼルカーの販売促進

5) 地域清掃

当社では、会社周辺の道路の清掃や空き缶ひろいを実施しています。2024年度は、月1回の清掃活動を実施し、目標である年間12回を達成することができました。今後は、ボランティア活動として活動区域を広げていきます。



図-6 店舗周辺の道路清掃

6) その他の取り組み その1

(コミュニケーション向上施策等による生産性改善の取り組み)

現在、当社では7名の従業員で協力し合い、お客様に対する商品販売、サービス等を実施してまいりました。この度、当社では、さらなる生産性改善の取り組んでいくことで、お客様に対して、迅速、丁寧、正確なサービスを提供できるよう、サービス品質の向上につなげていきます。2023年度では、前年度に引き続き、エコアクション21の2017年版ガイドラインの趣旨を踏まえて、当社経営活動と一体化した活動目標を設定するべく、生産性改善への取り組みを掲げました。生産性を改善することで、サービス品質の向上による売上・利益拡大だけでなく、作業ミス・手戻り作業の削減や、安全衛生面での事故リスクの削減など、環境面での効果も期待できます。以上の取り組みは、1年間継続した実績をエコアクション21の代表者による全体の評価と見直し・指示の中で、今後のさらなるパフォーマンス向上に向けて、チャレンジングな目標を掲げて取り組んでいきます。

【具体的施策】

- ① コミュニケーション向上について
 - ・社内外での挨拶の励行、重視
- ② 6S（整理、整頓、清掃、清潔、躰、センス）の徹底
 - ・6S啓発のポスター掲示
 - ・朝礼や社内会議での周知徹底
 - ・エコアクション21の代表者による見直し等での実践状況の評価

7) その他の取り組み その2

当社では、以上の環境管理活動について、2017年度から、自社ホームページで公開しています。当社従業員やお客様だけでなく、周辺地域を含むすべての皆さまに、当社の環境管理活動に対するご理解をいただくとともに、さらなる環境貢献に向けて取り組んでまいります。



図-7 ホームページ (http://www.maz-izumi.com) での環境管理活動の公開

8. 中期環境目標（2021～2023年度）

年度：当年4月～翌年3月

項目		単位	2020年度 実績 (基準年度)	目標		
				2021年度	2022年度	2023年度
電力	電力使用量	kWh	23,194	23,078 △0.5%	22,962 △1.0%	22,846 △1.5%
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	10,507	10,454 △0.5%	10,402 △1.0%	10,349 △1.5%
化石燃料	車燃料	L	9,012	8,967 △0.5%	8,922 △1.0%	8,877 △1.5%
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	21,377	20,059 △0.5%	21,510 △1.0%	21,056 △1.5%
二酸化炭素排出量合計		kg - CO ₂	31,884	30,513 △0.5%	31,912 △1.0%	31,406 △1.5%
廃棄物排出量	一般	kg	264	263 △0.5%	261 △1.0%	260 △1.5%
	産業	kg	10,642	10,589 △0.5%	10,536 △1.0%	10,482 △1.5%
水使用量		m ³	244	243 △0.5%	242 △1.0%	240 △1.5%
低燃費車販売		台	61	72 (6台/月)	72 (6台/月)	72 (6台/月)
地域清掃		件	12	12 維持	12 維持	12 維持

※電力の二酸化炭素排出係数：九州電力 2022年度調整後排出係数 0.453 kg-CO₂/kWh

9. 中期環境目標（2024～2026年度）

年度：当年4月～翌年3月

項目		単位	2023年度 実績 (基準年度)	目標		
				2024年度	2025年度	2026年度
電力	電力使用量	kWh	17,480	17,393 △0.5%	17,305 △1.0%	17,218 △1.5%
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	7,918	7,879 △0.5%	7,839 △1.0%	7,800 △1.5%
化石燃料	車燃料	L	8,019	7,979 △0.5%	7,939 △1.0%	7,899 △1.5%
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	18,888	18,794 △0.5%	18,699 △1.0%	18,605 △1.5%
二酸化炭素排出量合計		kg - CO ₂	26,806	26,672 △0.5%	26,538 △1.0%	26,404 △1.5%
廃棄物排出量	一般	kg	260	259 △0.5%	257 △1.0%	256 △1.5%
	産業	kg	10,017	9,967 △0.5%	9,917 △1.0%	9,867 △1.5%

水使用量	m ³	127	126 △0.5%	126 △1.0%	125 △1.5%
低燃費車販売	台	60	72 (6台/月)	72 (6台/月)	72 (6台/月)
地域清掃	件	12	12 維持	12 維持	12 維持

※電力の二酸化炭素排出係数：九州電力 2022 年度調整後排出係数 0.453 kg-CO₂/kWh

10. 環境関連法規の順守状況

1. 環境関連法規のチェック

2023 年 12 月に法令遵守状況を確認した結果、遵守されていることを確認しております。

法令名称	要求事項	適用施設	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物：許可業者への委託 産業廃棄物： ・収集運搬、処分業者との処分委託契約 ・産廃置場の法的表示 ・マニフェスト発行、5 年保存 ・マニフェスト交付状況行政報告	事務所ごみ 産業廃棄物及び置場 ・廃油、廃タイヤ、廃プラ、金属くず、バッテリー他	○
消防法	少量危険物取扱所保管基準の遵守	潤滑油・廃油置場	○
騒音規制法	行政届出・騒音境界値基準の順守	コンプレッサー	○
振動規制法	行政届出・振動境界値基準の順守	コンプレッサー	○
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検 廃棄時の専門業者委託	事務所業務用エアコン	○
自動車リサイクル法	リサイクル券の購入	自動車	○
家電リサイクル法	家電製品のリサイクル処理	TV、洗濯機、冷蔵庫	○
改正リサイクル法	廃パソコンの製造メーカー引取り	業務用パソコン	○

2. 違反・訴訟の有無

環境関連法規の違反は無く、過去 10 年以上、行政からの指摘や地域住民からの苦情及び訴訟はございません。

11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2024 年 4 月に 2023 年度のレビューを実施いたしました。エコアクション 21 活動に取り組みはじめて 10 年以上が経過しましたが、継続的な環境管理活動のおかげで、環境負荷については大幅な削減効果につながっております。引き続き、マネジメントシステムの強化を図りつつ、環境負荷軽減及び環境貢献につなげたいと考えます。

- 環境負荷の削減では、2023 年度は概ねすべての目標で達成できました。特に電気使用量の削減では、業務用エアコンの更新、ショールームの LED 化が大きく寄与しました。また、日常的な節電や節約の取り組み効果も大きかったものと評価しています。今後も、環境管理活動を徹底させていくことで、引き続き、様々な無駄を削減しつつ、電気使用量や廃棄物排出量の適正化に繋がっています。燃料についても、引き続き、代車等含めた社用車のガソリン及び軽油の使用量を抑えるよう取り組んでいきます。また、お客様に対しても、エコドライブを提案しながら、こまめな削減活動に取り組んでいきます。水利用についても引き続き節水に心がけていきます。地域清

掃活動についても、定期的な道路清掃活動を継続できています。2024 年度以降についても、引き続き目標達成を目指していきます。

2. 従業員の新規採用及び退職がある中で、EA21 マネジメントシステムの運用定着に取り組んでいます。2024 年度以降も引き続き、マネジメントシステムを見直し、組織の在り方、運営の進め方を改善していきます。
3. 環境関係の社内掲示は、従業員の周知という意味で大変役立っています。従業員にも理解しやすい掲示に改善してまいります。また、掲示物を定期的に変更するなど、社員の目につきやすい工夫も実践します。
4. 今後の環境教育は、会議等での環境教育を継続しながら、その他にも、販売店及び整備工場周辺の道路清掃などのボランティア活動を充実していきます。道路清掃に関しては、2016 年度～2023 年度は、月 1 回は必ず実施しており、環境に対する従業員の意識を高めていくとともに、環境に対する教育活動も継続してまいります。
5. 引き続き、2024 年度の年間目標達成に向けて、全社員で取り組みを進めます。なお、環境経営方針や環境経営目標を継続しつつ、EA21 マネジメントシステムの社内定着化を推進します。
6. 今後も引き続き、更なる社員の環境意識の向上と環境経営目標に対する取り組みを推進し、環境に優しい企業を目指すとともに、企業価値向上を図ります。

以 上